ゆたかな心をはぐくむ

人権のひろば 96

人権教育・啓発課　☎(232)2113

人権啓発標語　「口で言うだけでなく　行動に移し　部落差別をなくしていく」

武蔵ヶ丘中学校　2年　久保　壱成(いっせい)(現在3年生)

「お母さんからの手紙を読んで」

武蔵ヶ丘小学校　2年　若山　千尋(ちひろ)(現在3年生)

笑顔を見せる若山千尋さん(右)

「いのちのたんじょう」を学習するなかで、わたしは、お母さんから手紙をもらいました。

わたしは、生まれてきてよかったです。なぜかというと、お母さんが「生まれてきてくれてありがとう」と書いてくれていたからです。わたしも大人になったら、お母さんみたいにやさしい大人になりたいです。お兄ちゃんとけんかをすることもあるけれど、生まれてきてよかったです。わたしの家ぞくは、べんきょうを教えてくれたり、そうだんにのってくれたりするのでうれしいです。

二年生になって、なわとびで、あやとびやこうさとびができるようになりました。まえはできなかったけれど、れんしゅうをしてできるようになりました。つぎは、二じゅうとびがとべるようになりたいです。もうすぐ3年生になります。これからもべんきょうをがんばりたいです。

お母さん、生んでくれてありがとう。毎日、お仕事がんばってください。

(先生から)お母さんからの手紙をもらい、「ありがとう」という言葉が心に残ったと話していました。自分の命を大切にして、どんどん伸びていくことを願っています。

「識字学級」33年の歩み

東部町民センター講座発表会での展示

「識字」とは文字を覚えることだけでなく生活・生き方を問い直し、差別や抑圧から自分を解放する意味が含まれています。1984年4月、町内の識字学級は開講。そこには教育の機会を奪われたある母親の「幼いころ学校に行けなかった。今から勉強し字が書けるようになりたい。お願いできませんか！」という叫びがありました。1人から始まりましたが、作品を見た地域住民へ反響を与え、2年目に受講者は25人に増えました。以来、県内の識字学級や高知県の西山識字学級、奈良県の夜間中学校との交流、来日者の日本語の学びの場などとして33年の歩みが続いています。

ことしは東部町民センター講座発表会で「熊本地震で失ったもの、得たもの、学んだもの」をテーマに展示。大勢の地域住民などが作品を見ていました。

人権標語・ポスター・生活画展

計240点が展示されました

絵の題名
「心の輪をひろげよう」

町内の園児・小中学校の児童生徒の皆さんが描いた生活画・人権標語・ポスターを1月10日～20日、光の森町民センターで展示しました。日々の暮らしの中で感じた人権への願いや思いを受け取ってもらえたでしょうか。今後も子どもたちが書いた人権標語は毎月広報紙でお伝えしていきますのでご覧ください。

菊陽人りさーち

たきもと　けいた　瀧本　恵汰さん
(9歳・馬場)

- ●趣味　サッカー
- ●特技　水泳
- ●将来の夢　救急救命士
- ●やってみたいこと
  ハワイに行きたい
- ●お母さんへ
  いつもご飯を作ってくれてありがとう

[菊陽のおすすめスポット]
菊陽北小学校
(友達がいっぱいいるから)

まつもと　しゅんたろう　松本　俊太郎さん
(9歳・鉄砲小路)

- ●趣味　サッカー
- ●特技　剣道
- ●今後の目標　剣道で初段を取る
- ●やってみたいこと
  剣道で先生と戦いたい
- ●お母さんへ
  これからも剣道頑張ります

[菊陽のおすすめスポット]
菊陽町図書館
(歴史のことを調べられるから)

菊陽人りさーちの掲載を希望する人は氏名、年齢、住所、連絡先(昼間)をお知らせください。掲載対象は、小学生以上で菊陽町に住んでいる人です。掲載が決まりましたら、ご連絡します。

■申し込み・問い合わせ
〒869-1192　(住所不要)
菊陽町役場総合政策課　☎(232)2112
sogoseisaku@town.kikuyo.lg.jp

キャロッピー

きくよう文芸

菊陽句会報

なで肩の山波今朝の雪景色　宮川ユキエ
白菜のあればまずまず夕支度　井上久美子
底冷えや若き大工の黙々と　紫藤　祥子
下萌や片足立ちの二十秒　曽我　育代
シクラメン萎えしを惑ひ部屋に置く　曽我トモ子
瀬の音の膨む辺り春菜摘む　村上　朋子
風もなし空に叫びて枯れすすき　緒方チエ子
手料理の運を巻き込む恵方巻き　米山るみ子
大寒の言の葉痛き響かな　吉田　幸子

春燈のここも地震傷春立てり　木村　信子
幸せもほどほどで良し二月尽　財津　早雪
香をほどき闇夜に浮かぶ梅の花　原野レイ子
遠山の消えてしまひぬ雪激し　力　幸子
朝粥の湯気にむせびし春隣　寺尾千代子
春立ちて孫の記念樹訪ねたり　高橋　孝子
やんばるのブルーの海に蜃気楼　堀川　妙子
春風に走って歩いて万歩計　福田　貴子
庭梅の老いたり淋しさ花の数　佐藤　澄世

短歌会

やや遅く播きし白菜まだ軟く蘽立つ前に固巻くだろうか　梅田　國雄
それぞれに歌を残して逝きし人思へばはるか歌にしのばむ　河北　幸一
素枯れたる庭に久しき福寿草の花柔らかに冬の日を受く　佐藤せい子
冬晴れに誘われ歩む麦畑の緑葉冴えて遠くに続く　中村トシエ
寒空に木々のゆれるを眺めつつ優しき夫の想い出たどる　古荘喜佐子
この丘に菜の花すでに散り初めて海面は碧くさざ波の立つ　山川　カヅ
湯気のたつ芋を丸ごと仏壇に今朝は供えぬ姑の好みの　山口　静子
対岸の繁りに啼くは何鳥か穏やかに日は傾かむ頃　松本　東亜